

Lead

All roads lead to the future リード



コミュニケーションペーパー
2015 Spring 春号 ¥0 TAKE FREE

高知の自然を研究に活かせ!

化学物質で会話!?

植物や昆虫の不思議を探る
竜巻・豪雨のメカニズムに迫る

〈特集〉



新入生へのメッセージ
学長・学部長からのメッセージ

まなびの時間

土佐の海の世界学I
柏島の海から考える

ぼくらのキャンパスライフ

学生自主活動「からふるカンパニー」

高知大学ニュース

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

Event information 2015 Spring 春号

オープンキャンパスのお知らせ Open campus 2015

平成27年度のオープンキャンパスは、8月1日(土)、2日(日)に開催いたします。企画の内容、日程等の詳細は、決まり次第、順次ホームページに掲載します。申込方法は6月下旬に掲載する予定です。



実際の器材を使って実習の体験ができるよ

先生や学生から話を聞けるチャンス!

ホームカミングデーのお知らせ

高知大学卒業生の皆様、第6回目となるホームカミングデーは、平成27年11月1日(日)に開催します。詳細は、7月頃に大学ホームページでお知らせする予定です。ぜひご参加ください。

11/1(日) 黒潮祭と同時開催

記念式典・記念講演・懇親会など様々なイベントを行います。久しぶりに、母校での一日をぜひお楽しみください。



毎年イベントを用意しています。ぜひご参加ください!

メルマガ配信中!
月2回配信(第2・4金曜日)

高知大学からメールマガジンを配信しています。大学の「入試情報」から「あれこれ(これは面白い)」まで!!
登録はこちら <http://daigakujc.jp/kochi-u>



●お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

高知大学 高知大学広報戦略室
Kochi University
<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033
〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp



平成27年度学年暦 Campus schedule (予定)

高知大学の授業等に関する年間スケジュールです。

4月~6月

4/2(木)	新入生オリエンテーション
4/3(金)	入学式
4/6(月)	在来生オリエンテーション
4/6(月)~8(水)	第1学期履修登録期間
4/13(月)	第1学期授業始

7月~9月

8/3(月)~7(金)	第1学期試験期間
8/10(月)~31(月)	夏季休業
9/1(火)~30(水)	特別授業期間
9/18(金)	秋季修了式
9/17(木)・18(金)	第2学期履修登録期間
9/24(木)・25(金)	

10月~12月

10/1(木)	創立記念日・第2学期授業始
10/10(土)・11(日)	南風祭(岡豊キャンパス)
11/1(日)・2(月)	黒潮祭(朝倉キャンパス)
11/3(火)	物部キャンパス1日公開(予定)
12/27(日)~1/4(月)	冬季休業

1月~3月

1/16(土)・17(日)	大学入試センター試験
2/2(火)~8(月)	第2学期試験期間
2/9(火)~29(月)	特別授業期間
3/1(火)~31(木)	学年末休業
3/23(水)	卒業式

高知大学の最新情報を伝えたい
THE こうち
ユニバーシティCLUB

FM 高知 毎週日曜日放送中
81.6MHz (9:30~9:55)

高知大学のHPから過去放送分も視聴できます!
http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio_fm_kochi/
高知大学の教育、研究、地域貢献等のホットな情報をお届けします。

スポンサー企業
高知銀行/構営技術コンサルタント
相愛/ソフテック/アルフレッサ篠原化学





「化学物質を使って昆虫を制御する」

「「こちにおいでよ」私は美味しくないよ。植物が昆虫にむけた、そんなささやきに耳を傾けるのは、農学部教授の金哲史先生。「植物や昆虫は、化学物質によってコミュニケーションを図っているんですよ」と話します。金先生の専門は化学生態学で、おもに植物や昆虫について何らかの生理作用を引き起こす化学物質である生理活性物質を研究しています。

「生態学とは、生物間の相互作用について生物がお互いに影響を及ぼしていることを研究する学問。そして相互作用のなかで用いられる化学物質について研究するのが



「アゲハチョウはミカンの葉っぱに卵を産みます。ミカンの葉には産卵を促す産卵

刺激物質が含まれています。だから、ミカンの葉の成分を抽出して浸したる紙にだつて、アゲハチョウは卵を産みます。次に、成分を2つに分離してろ紙に浸し、アゲハチョウがどちらに卵を産むか観察する。卵を産んだ方のろ紙の成分を再び分離し、また観察。これを繰り返して、産卵刺激物質を特定します。虫が教えてくれるというわけで、この方法を生物検定といいます」

研究室では現在、稲の重要害虫であるトビイロウンカの産卵刺激物質や、国の特別天然記念物に指定されているミカドアゲハの産卵刺激物質や摂食刺激物質の単離、同定に関する研究を行っています。

「研究テーマはおもしろいこと、誰もやっていないことを基本に選んでいます。たとえば、ワタアラムシはムクゲという木で卵からかえるのですが、1ヶ月もたつとナスやウリに移る。でも秋になると再びムクゲに帰ってくる。どうして

〈特集〉高知の自然を研究に活かせ!

化学物質で会話!?

植物や昆虫の不思議を探る

植物や昆虫は化学物質でコミュニケーションする!
高知県の豊かな自然が、そんなユニークな研究を支えています。



「世界、そして未来を目指す研究を高知で」
金先生は、研究の場として高知は恵まれた環境だと考えています。「高知は気候が温暖で、植物が豊富。生物相(特定の地域に生育する植物の種類)も豊かです。私のような研究をする者にとって、地の利の恩恵を受けています。たとえばアオスジアゲハの研究では、他県では年2回特定したいと研究しています。」

「アゲハチョウはミカンの葉っぱに卵を産みます。ミカンの葉には産卵を促す産卵刺激物質が含まれています。だから、ミカンの葉の成分を抽出して浸したる紙にだつて、アゲハチョウは卵を産みます。次に、成分を2つに分離してろ紙に浸し、アゲハチョウがどちらに卵を産むか観察する。卵を産んだ方のろ紙の成分を再び分離し、また観察。これを繰り返して、産卵刺激物質を特定します。虫が教えてくれるというわけで、この方法を生物検定といいます」

トビイロウンカの摂食行動阻害物質の構造を世界で初めて解明

「化学生態学なんです」

化学物質による生物間の相互作用をコミュニケーションに例えた金先生が、わかりやすい例として挙げたのが「性フェロモン」。生殖のためにオスを引き付けようと、メスが分泌する化学物質です。

「これはメスがオスに働きかけるコミュニケーション。言い方を変えると、『私はここよ、早く会いに来て』と化学物質を使って伝えているわけです」

金先生の研究がユニークなのは、研究対象が同じ種のオスとメスではなく、植物と昆虫の関係にあること。

「農業で大きな問題になっているのが虫です。虫をいかに制御するかが大事で、そのカギを握るのが化学物質だと考えます」

「化学物質の特定は虫が教えてくれる」

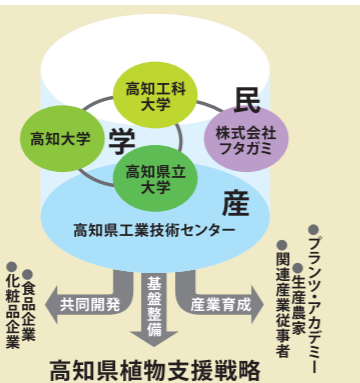
金先生の研究室では、いくつかのテーマを並行して研究しています。どのような工程を経て、コミュニケーションに使われる化学物質を特定していくのでしょうか。アゲハチョウを例に話してもらいました。



教育研究部 総合科学系
生命環境医学部門
教授

金哲史

1958年、大阪府生まれ。鹿児島大学水産学部卒業、博士(農学)。高知大学には1991年に着任した。「化学的な視点で物事を見ると、新たに見えてくることあるんです。いろいろな現象には理由がある。そこが面白い!」



高知県の植物資源を活かす研究も

高知工科大学や高知県立大学、高知県工業技術センターなどと連携して進められている「有用植物活用プロジェクト」において、高知県に自生するウバユリが血圧を下げることを見だし、2014年に特許を出願しました。

「現在の農業のように、農業をまいて畑や水田にいる害虫を全滅させて収穫するというスタイルは、いつか限界が来るのではないのでしょうか。農業自体、自然環境を乱して生産行為をしているわけですから、私たちも分をわきまえて、これからの農業には、虫のことや植物のことも配慮した三方二面損のような大岡裁きのな仕組み作りが必要と思われまます。虫や植物と共存共栄できるよう基礎研究を、いま私たちはやっているのです」

100年後の「農業」を目指した取り組みが、高知で始まっています。



〈特集〉高知の自然を研究に活かせ!

大雨、竜巻のメカニズムに迫る

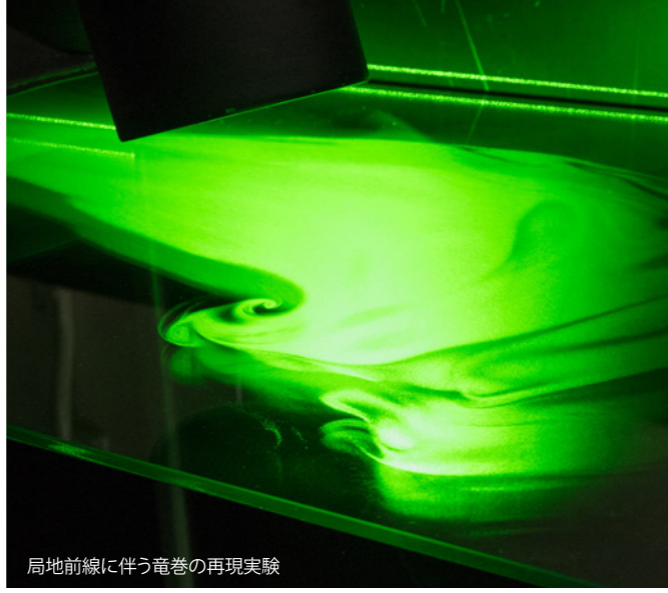
強い日差しが降り注ぐ晴れの日が多い一方で、土砂降りの雨が続くなど、高知の気候はとてもダイナミック。その独特の気候を活かした研究が行われています。



竜巻が生まれるメカニズムを机上で再現

「研究対象は、ひとりで言うところ、嵐。積乱雲に伴って発生する大雨や突風、雷や竜巻などの気象現象を調べています。気象学のなかで『メソ気象学』といわれる分野。メソは、中間規模の」という意味で、積乱雲1個やそれはいくつか集まった規模で起こる局所的な気象現象の研究です」

こう話すのは、理学部応用理学科の佐々浩司先生。竜巻研究の第一人者として、その研究は全国の注目を集めています。佐々先生の研究は実験と観測の2本立て。実験では、竜巻やダウンバースト(突風を生む強い下降気流)の室内での再現実験を行っています。



局地前線に伴う竜巻の再現実験

竜巻の上陸が予測できるようになる

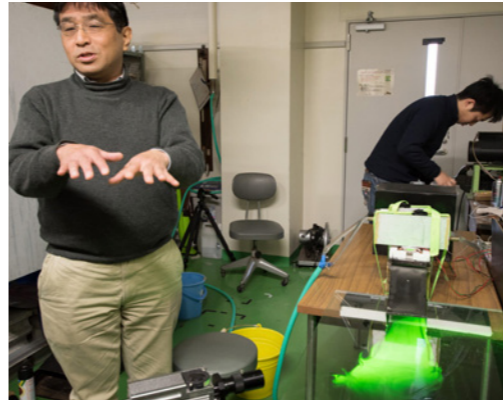
「現在、力を入れているのは気象観測です。実験を繰り返すうちに、実験と現実とは違うかもしれないという不安が生まれました。実際に見たい!」生の竜巻を調べたい!というところから始めたのが気象観測です」

気象レーダー(二重偏波ドップラーレーダー)は2014年に朝倉キャンパスと物部キャンパスに設置され、この春には高知県東部の安芸市にも新たに設置し、県中部をカバーできるようになります。これらのレーダーは粒子の種類を判別できる。偏波パラメーターを求めることができます。これにより、雲の中の雨粒の量の観測に加え、雨粒の大きさの測定や、雨、雪、ひょうなどの区別もできます。



2014年台風8号 高知平野で発生した竜巻の被害

いつか、こういったことが組み合わさると、こういうことが起きるよね。という基本的な条件があります。これに従って装置をつくることで、再現実験ができるのです。たとえば日本でよく起きるタイプの竜巻は直径が数10mですが、「上昇流」と「速度差」という二つ



ノンスーパーセル竜巻のシミュレーター

「竜巻を捉えた場合、雲の中には雨粒のほかにはほこりなどの巻き上げられた飛散物が含まれます。偏波パラメーターはそれも判別できるので、竜巻の発生を確認することができます。また、竜巻の中の構造が明らかになる可能性もあるのです」

さらに、竜巻発生の注意喚起もできるようになる、と考えています。高知県の場合、竜巻の多くは海で発生して、その後上陸します。海で発生した時点で竜巻を捉えることができたなら、上陸前に竜巻情報を発信することも可能になるとのこと。今後、防災面での活用も大いに期待されます。

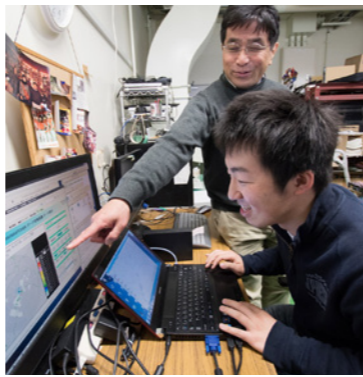
気象学的に変化に富んでいる高知の気候。年間の降水量が全国で一番多く、しかもしとしと降るのではなく、大雨になることが多い土地柄。竜巻の発生件数も全国で有数です。こんな独特な気候を有した高知そのものに注目している、と佐々先生は言います。

積乱雲

の素過程を組み合わせる実験では直径1cmぐらいのとてもかわいい竜巻が再現できます。この再現実験によって、まわりの気流の状態がどうなると竜巻ができるのか、という発生のメカニズムが明らかになります」

アメリカで多く発生して甚大な被害をもたらす、巨大な積乱雲「スーパーセル」が引き起こす竜巻も再現。実験装置の「スーパーセルシミュレーター」は世界で唯一のもので、

「実験をしなくてもコンピュータでシミュレーションできるのでは?と疑問を持たれるかもしれませんが、そうではない。コンピュータでは実際に竜巻が起きたデータを使ったシミュレーションするため、発生パターンはわかっても、発生しない場合の仕組みを解明することはできません。実験ならば条件を自在に変えて確かめることができます。再現実験の大きなメリットです」



朝倉・物部キャンパスのレーダー映像を常時記録している

不思議がいっぱいの高知の気象

「以前は気象のメカニズムだけが研究対象だったのですが、いまはなぜ高知はこのような気候なのか、高知についていろいろとこころなのか、改めて見直そうと考えています」

高知大学に着任したことから、高知で発生した突風や竜巻の調査を通じて興味をかきたてられ、やがて本格的に嵐の研究を始めたという佐々先生。まだまだ、高知の気象現象には不思議なことがあり、謎を解明したいと話します。

「たとえば、一般的に夏の雷はマイナスの電荷を帯びた雷が落ちるのですが、なぜか高知ではプラス電荷の雷が割と多いのです。その理由がわからない。偏波レーダーを使えば調べることができるとは思いますが、これからの取り組みたいテーマです」

ドップラー・レーダーを朝倉キャンパスと物部キャンパスに設置

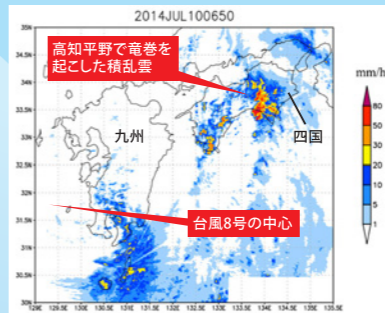
救急車などが近付く時と遠ざかる時で音が違って聞こえる現象で有名なドップラー効果を利用した特殊なレーダー。

教育研究部 自然科学系 理学部門 教授 佐々 浩司

1959年、愛知県生まれ。豊橋技術科学大学大学院工学研究科修士課程修了。博士(工学)。1994年に高知大学に着任。専門は流体力学、気象学。「竜巻を見たことはないんですよ。研究者としては、実際に竜巻を見てみたいという思いで夢に見るほど。でもそんなときは、家族を避難させなきゃと夢の中なのにおろろします」

竜巻が発生しやすい高知県の気候の特徴とは?

高知県は大雨をもたらす積乱雲や台風の到来が多い事から必然的に竜巻の発生しやすい土地柄となっている。右の図は2014年の台風8号に伴って竜巻が発生した際の雨雲の様子。



竜巻発生のメカニズム

積乱雲による強い上昇気流によって発生する竜巻。台風に伴って発生する竜巻もしばしば確認されている。

上昇気流



大学生としての責任を胸に 学びに向かう

高知大学は「学生、社会に対して責任をとれる教育」を目指しています。学生諸君には、国立大学で国税の支援のもとに教育を受けるという、選ばれた者だけに与えられる特権を享受していることを自覚し、そのことに感謝の念を持ち続けて下さい。諸君には「高貴な者に伴う道徳的・精神的義務」すなわち「ノブレス・オブリージュ (noblesse oblige)」を抱き続けて頂きたい。権利には義務と責任が連結しており、諸君は、国民の大いなる期待と社会に対する大きな責任を負っており、よく学び、修得した成果を社会に還元することを自らに課す義務と認識して頂きたい。

諸君は、生徒から学生に変身しなければなりません。自律的、能動的に学ぶ姿勢がなければ学生とは呼べません。卒業後、社会で活躍するには、豊かな教養と自己アイデンティティが必要です。リベラルアーツはどれもが諸君の成長に必須の素養です。富士山の稜線のごとく美しく、切れ目のない広がりのある教養の裾野の上に高い専門知識は上に立つのです。高知大学で豊かな教養を身につけましょう。

高知大学は「地域の大学」として、高知ひいては日本の発展に寄与することに重きを置く大学です。地域協働教育と海洋・防災に優れた教育研究は、わが国そして国際社会で求められる強みであります。ユニコーンのように突出した特色を発揮する大学を目指しています。

高知大学 学長 **脇口 宏**



土佐さきがけ プログラム

土佐さきがけプログラム(TSP)では、これまでの学部や学科・コース等での学びにとどまらず、関連する様々な分野の学問を横断的かつ総合的に学ぶ特色ある独自のカリキュラムを準備しています。TSPでの学びを通じて、現代社会が抱える様々な課題の解決に積極的に取り組む人材に成長して下さることを期待しています。

幅広い知識と視野で
世界を目指せ!



運営委員長 **岩崎 貢三**

●所属/総合科学系生命環境医学部門・教授
●専門分野/植物生育環境学

地域協働学部

「地域協働」の名に込めた思いの一つは、地域協働による学びが皆さん自身の未来を拓くという思いです。皆さんは、高知県の多様な地域で、多様な人々と協働しながら、アクティブに学んで行くことになります。その中で、4年後、さらにその先の人生ビジョンを描き、実現する智恵と行動力を身につけて行くことができると思っています。

地域協働で
自らの未来を拓け



地域協働学部長 **上田 健作**

●所属/総合科学系地域協働学部門・教授
●専門分野/非営利組織論・公益事業論

農学部

生命、エネルギー、安全な食料生産、環境の保全、生物資源の有効利用などの学びを通じて山から海までのフィールドで生じる諸問題の問題解決能力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成します。自然を相手に積極的にチャレンジすることで、豊かな人間性が養われるはずで

自然と人間との共生
農学探究から未来創生へ



農学部長 **石川 勝美**

●所属/自然科学系農学部門・教授
●専門分野/植物環境システム学

医学部

建学以来「敬天愛人」「真理の探究」の精神のもと、「自分で考え、自分で解決する」リサーチマインド豊かな医療人を育成してきました。また、医療に携わる者は知識のみならず、豊かな人間性を併せ持ち、病める人を救おうとする意志と情熱が必要です。患者さんの病状だけでなくその背景を理解し、病を治す、優れた医療人を育成します。

良き医療人となるための
人間力を養おう



医学部長 **杉浦 哲朗**

●所属/医療学系臨床医学部門・教授
●専門分野/循環器病学・臨床検査医学

理学部

自然界の本質は美しいものです。ある人は、生物の造形にその美しさを、別の人は物質の結晶構造にその美しさを、また別の人はラプラス変換やシュレーディンガーの方程式にその美しさを感じることでしょう。理学とは、新たな美しさを自ら発見したり、また感じとることを通じて、物の見方を勉強していく学問とも言えるのです。

自然の摂理は美しい



理学部長 **鈴木 知彦**

●所属/自然科学系理学部門・教授
●専門分野/生化学

教育学部

教育学部は、小・中・特別支援学校や生涯教育の学習者の成長・自己実現にとって、今ここで必要な内容・方法を長期的で広い視野から見抜き、実践できる教師・生涯学習指導者を養成します。理論と実践の往還により実践的指導力を身につけるカリキュラムと、卒業後の進路を適切に選択するための学生支援体制を整備しています。

学び習者に寄りそえる
教師になろう!



教育学部長 **藤田 詠司**

●所属/人文社会科学系教育学部門・教授
●専門分野/社会教育学

人文学部

君たちが日常目にする光景に真実はなかなか顔をみせてくれません。パッチャルな世界はインターネットだけではなく、社会の構造そのものにも由来しています。大学とは、君たちが物事の真実に迫る、又その方法を自ら学ぶ場です。人文学部において、その真実に、思慮深く時に果敢に迫っていただきたい。そして、そこで掴んだものを自分の主観の中に置いて実感していただきたい。

一瞬の更感とも普遍化する
熱き知識人を目指せ



人文学部長 **吉尾 寛**

●所属/人文社会科学系人文社会科学部門・教授
●専門分野/中国近世近代史

ぼくらの キャンパスライフ

高知大生の今にエール!



子どもたちに寄り添いながら 学びをサポート

放課後の小学校。図書室に子どもたちが集まっています。週に1回、子どもたちの学習支援のため、「放課後学習室」が開かれるのです。教えるのは教育学部の学生の団体「からふるカンパニー」のメンバー。調べ学習を促したり、気分が乗らない子どもにも興味を引くヒントを与えたりしながら、学習を進めます。

先生より身近なお姉さん、お兄さんとして



学生団体 からふるカンパニー

高知市内の小学校での放課後学習室でチューター(指導員)として指導していた5人の学生が、子どもたちの学習支援をより効率的に行うことを目的に2011年に設立。2014年、公益財団法人高知新聞厚生文化事業団により2014年度秋厚生文化事業助成金に採択された。現在、25人(大学院生含む)のメンバーが参加している。



各自でつくった教材を囲んで互いに講評。より良いものを目指す

田なるみさんとメンバーの皆さんに話を聞きました。「高知市内の小学校で、放課後学習室のチューター(指導員)として、小学4〜6年生の子どもたちに勉強を教える活動をしています」と濱田さん。「からふるカンパニー」は高知市から委託を受け、市内2校で放課後学習室の運営を行っているとのこと。サークルへの参加の動機をメンバーの皆さんにきくと、「将来は小学校教諭になりたいので、いまから子どもたちと関わりたいと思って」「実際の教育現場を体験したいと参加しました。子どもたちと触れ合うことで、先生になることが目標になりました」と話してくれました。

学習室にはさまざまな子どもたちが集まると言います。「勉強が苦手な子どももいます。」「入学当初に使ったためのワークシートを作っています。学校の先生は本当に忙しい。このワークシートを活用していただくことで、少しでも先生方の役に立ち、また『小1プロブレム』の解消になればと思います」と目的を話します。ワークシートはこの春、高知市内の小学校に配布する予定です。

「このほかに地域のイベントに参加するなど、積極的に子どもと関わる活動を続ける」からふるカンパニー。「これからは、個人でチューターとして活動している学生とも交流をしていきたい」と抱負を話します。

愛情たっぷり、オリジナル教材

サークルのもう一つの柱は、オリジナル教材の作成です。放課後学習室で使う教材は子どもたち一人ひとりの理解度に合わせて作り、やる気になるようにいろいろと工夫を凝らしているとか。また、昨年から小学校1年生のための教材も制作しています。

※小1プロブレムとは、入学したばかりの小学校1年生が授業中にじっと座っていられなかったり、集団行動ができないなど学校生活になじめない状態が続くこと。

左記写真、後列左から、部長の濱田なるみさん(教育学部3年生) 小林 愛佳さん(教育学部3年生)

前列左から 吉積 美和さん(教育学部3年生) 小谷 美沙希さん(教育学部3年生) 中島 浩文さん(教育学部3年生)

小学校1年生用オリジナル教材



柏島の海から 考える。

自然科学と社会科学の
両面からアプローチする

高知県南西部、大月町にある柏島。周囲4kmという小さな島を、自然科学と社会科学の両面から海の環境問題についてアプローチする講義が「土佐の海の環境学I: 柏島の海から考える」です。全学部生の受けられる「共通教育」であるのに加え、高大連携の高校生も受講することができま

「2001年に開講したのですが、1998年頃から自然科学と社会科学の研究者が集まり、科研費なども取って、柏島の海の生態や環境、利用のコンフリクトの問題などについて、共同研究を行ってきました。その成果や知見を学生に還元するために始めたのが本講義です」と話すのは、講義

の代表者である新保輝幸先生。自身も、柏島の海の問題に関する経済学的な読み解きについての講義を行っています。「土佐の海の環境学」では毎年、高知大学内外の教員10名程度がそれぞれの専門分野についての講義を担当します。講義は教室での座学と柏島でのフィールド実習で構成。座学では、生物学や生態学など自然科学から見た土佐の海についての講義と、漁業や漁村の経済「海面の利用調整」についての法律問題など、社会科学に則した講義が行われます。



上から
・シュノーケリングによる海洋生物観察
・地域住民を交えた座談会(ミニシンポ)
・幡多ゼミの山下正寿先生の現地講義(2014年)



先生に聞きました!



教育研究部 総合科学系 黒潮圏科学部門 教授 新保 輝幸
1964年生まれ。京都大学農学部卒業、同大学院農学研究科博士課程修了。博士(農学)。1995年、高知大学に着任。環境経済学、農業経済学が専門。「学生が楽しみにしている柏島でのシュノーケリング実習では私も一緒にボートに乗るのですが、何かあった時のために私は舟で待機です…」

「柏島の海は広範囲にサンゴの群生が見られ、1000種以上の魚が確認される豊かな生物相に恵まれています。日本有数のダイビングスポットとして、年間1万人を超えるダイバーが人口5000人に満たない島にやってくる。そのために生態系が劣化したり、漁民とのトラブルが起こったりしてきました。柏島は自然科学的なおもしろさと社会科学に考究すべき問題とを兼ね備えた地域なんです」

「ただでなく、地元の方にも参加していただいています。東日本大震災後は南海トラフ地震に備え地域の防災をどうすればいいかという点を考え、昨年は島の高齢者の方に話を聞いて柏島の昭和20〜30年代や戦中の柏島の様子を掘り起こし、この数十年の地域の変遷を実感してもらいました」

ひとつの地域を対象にして多面的にアプローチすることで、多様な視点からものを見る仕方をつける本講義。受講した学生からは、「モノの見方が変わったなどの感想が寄せられているとか。今年は、これまで2泊3日だったフィールド実習を3泊4日に拡大。柏島に向かいの活動をさらに充実させる予定です。」



・伝統的な薪を焚く方法でのところてん作りを体験(オプション) テングサを日干しているところ



須崎市 連携事業に関する協定締結

大学だからできる協力体制

高知大学と高知県須崎市は1月22日、連携事業に関する協定を締結しました。本協定は、「人材育成」と「産業振興」を柱としたもので、「人材育成」では、平成27年度から須崎市職員1名が高知大学地域連携推進センターに派遣され、「自治体連携コーディネーター」として大学を活用した施策設計と実行の経験を積んでいただくことにしています。

また、「産業振興」については、須崎市産業振興計画の推進のため高知大学が研究者を紹介するなど協力していく予定です。



握手を交わす
脇口宏学長(左)と
榎瀬耕作須崎市長▶

卓越した学業等成績優秀者授業料の免除

学業等成績優秀者の今後に期待

高知大学では、既存の授業料免除制度に加え、大学・大学院を卒業・修了する学生を対象に、優れた成績や研究成果を残した学生を「卓越した学業等成績優秀者」として、授業料の年額を免除する制度を設けています。

本年度は、学部学生12名、大学院生9名に免除決定通知書が交付されました。脇口学長からは、卓越した学業等成績優秀者に選ばれたことを誇りに、社会の発展となる活躍を期待したいとの挨拶がありました。

名誉ある
授業料免除



▲交付式の様子



▲本年度の学業成績優秀者

地(知)の拠点整備事業全国シンポジウム開催



▲施策説明を行う
塩見課長

基調講演を行う▶
増田座長



高知大学は、2月27日、28日、高知市において、地(知)の拠点整備事業シンポジウム「COC全国ネットワーク化事業地(知)の拠点整備から地方創生へ」を開催し、全国の大学や県内自治体の関係者等300人余りが参加しました。

「地(知)の拠点整備事業(COC)」は、文部科学省が地域コミュニティの機能強化を図ることを目的に、大学が地元自治体と連携して地域課題に対し全学的に取り組む事業を支援するものです。

高知大学も、高知県の地域課題に対し、COCと

大学を拠点に地方創生へ
全国ネットワーク化を目指す

してKICS(※)化事業に総力をあけて取り組んでいます。

シンポジウムの初日は、脇口宏学長の主催者挨拶、尾崎正直高知県知事の来賓挨拶に続き、文部科学省高等教育局大学振興課長の塩見みづ枝氏からCOCの施策の狙い及び次年度に計画されている地方創生に向けた事業について施策説明が行われ、次に日本創成会議座長の増田寛也氏から基調講演として政府の地方創生戦略やその中で大学の果たす役割について述べられました。

その後に行われたパネルディスカッションでは、COC実施機関、自治体、中小企業団体からパネルをお招きし、「政府が進める地方創生に対して、具体的に大学がどのように貢献できるか」をテーマに議論が行われました。

また、2日目は、COC実施機関から事例報告が行われ、全国の取り組みの共有を図るなど、成果の一層の向上と全国ネットワーク化に向けて、大変有意義なシンポジウムとなりました。

※高知インサイド・コミュニケーションシステム



ヘリポート
完備

医学部附属病院 新病棟(第二病棟)完成

緊急搬送にも対応可能 災害に強い病院へ

医学部附属病院に新しい病棟(第二病棟)が完成しました。地上7階建て(18,514㎡)、屋上にはドクターヘリでの緊急搬送にも対応できるヘリポートを完備しています。

また、免震構造を持ち、7階と地上を結ぶスロープや屋上に予備の自家発電設備を設置するなど大規模災害対策が強化されている他、急性期や周産期の先端医療の充実や病室の個室を増やし、ベッド当りの専有面積を大きくする等患者さんの利便性の向上が図られています。

今回の増築は、医学や社会の進歩に伴う医療を巡る環境の変化に対処するため、平成18年から計画を進めてきた病院再開発の一つとして行われました。今後も平成30年まで既設の病棟・診療棟の改修を順次行う予定です。

平成26年度研究顕彰制度授賞式

高知大学研究顕彰制度は、大学の研究の活性化と発展を目指して特に優れた研究を行った教員、若手研究者及び大学院生を表彰しています。今年度は、「研究功績者賞」4名、「若手教員研究優秀賞」1名、「大学院生研究奨励賞」4名が受賞し、脇口宏学長から今回の功績に対する敬意と、今後の大学の研究発展に寄与してくれることを期待した祝辞が述べられました。

- 受賞者一覧
- 研究功績者賞
 - 若手教員研究優秀賞
 - 大学院生研究奨励賞

- 農学部 山本 由徳 教授
- 臨床医学部 井上 啓史 准教授
- 医学部附属病院 福原 秀雄 特任助教
- 総合研究センター 白井 朗 特任教授
- 教育学部 阿部 鉄太郎 講師
- 総合人間 自然科学研究科 教育学専攻 八木 祐助 さん
- 総合人間 自然科学研究科 教育学専攻 邊見 由美 さん
- 総合人間 自然科学研究科 農学専攻 細美 野里子 さん
- 総合人間 自然科学研究科 農学専攻 渡辺 靖崇 さん



文部科学大臣優秀教職員表彰

学習指導の研究が高評価

平成26年度文部科学大臣優秀教職員として、教育学部附属小学校の藤田教頭が、文部科学省より表彰されました。

藤田教頭は、学校教育において他の教職員の模範となるような実践(算数科の学習指導における研究等)を行い、特に顕著な成果を上げたことが表彰につながりました。



▲受賞報告後の記念写真(前列中央)藤田教頭

永野 靖典助教 運動器の10年・日本賞を受賞

地域や子どもと協力し 実践する健診

附属病院リハビリテーション部の永野靖典助教や医学部環境医学教室らと高知県黒潮町が協力して実施している「三世代ふれあい健診」が「運動器の10年・日本賞」を受賞しました。

同賞は、世界保健機関(WHO)の「運動器の10年」世界運動の普及啓発事業として、一般財団法人運動器の10年・日本協会が運動器の健康増進を目指す独自のかつ優れた事業・活動に対して贈る名誉ある賞です。

「大学から健診の意義や方法を学んだ小学生が検者として健診に参加するという点が斬新であり、全ての世代に運動器が健全であることの大切さを気付かせる良い企画である」と高く評価されました。



高知大学ニュース